

徳地地域づくり協議会視察研修報告

「災害は忘れたころにやってくる」ということで、3月8日(金)に徳地地域づくり協議会会員26名で福岡市民防災センターへ、災害体験の研修に行きました。

福岡市民防災センターは、いろいろな災害の模擬体験を通して、もしものときの防災に関する知識や対処法などを身につける施設です。

ご周知のとおり、徳地地域は高齢化率43%を超え、災害に対する不安が大変高まっています。徳地地域は面積も広く、広範囲で災害が発生した場合は、関係機関に頼っている手遅れになる可能性もあります。「自分の身は自分で守る」「地域の安全は地域で守る」ことを念頭に置いておかなければならない時代になってきました。

危険個所の把握や避難場所の再確認等をしておき、地域でお互いに助け合うことを心掛けておきましょう。

今回は、以下の4つの災害体験を行いました。

消火(初期消火)

火事を発見したときの対処(まず大声で周囲に知らせ、家庭用消火器での初期消火をする)の体験でした。

最後まで火が消えず消火に失敗した人もいましたが、消火器の扱い方や火元との距離、狙う場所等教えていただきました。

火が天井裏に入ったときは、消火器では無理なので、消防にすぐ連絡するように言われました。



地震(震度7の揺れ)



震度は1から7まであるのですが、いくら揺れがひどくても震度7以上の数字はないそうです。

今回は震度7の揺れと関東大震災の揺れを体験しました。みんな椅子に座って机にしがみついているのがやっとでした。

体験場所には家具などなかったのがよかったのですが、実際の家庭ではタンス等の家具や台の上に物が乗っていることがあるので、それが倒れてきたり、落ちてきたりしたら絶対怪我をすと思いました。

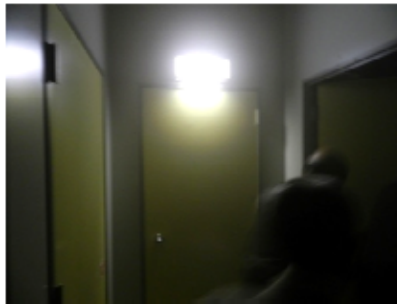
強風（風速30m）

風速30mという数字は徳地ではあまり聞きませんが、テレビ等ではよく見たり聞いたりします。

風速32mまで体験しましたが、手すりなしでは立ってられず、目も開けてられないほどでした。



火災（火災時の避難）



実際の火災のように、真っ暗で煙が充満している迷路内を通り避難する体験で、避難姿勢や避難スピード、防煙対策を学びました。

体験と分かっているにもかかわらず、パニックになるほどでした。



災害は無いにこしたことはありませんが、いつ起こるかわかりません。東日本大震災や防府・山口の豪雨災害などまだ記憶に新しいことだと思います。

現在、山口市では地域で防災対策をするため、自主防災組織の結成に取り組んでいます。今年の2月からは、啓発用のチラシも3回全戸配布しました。

自治会長には「自治会活動の手引き」も配布していますので、その中の自主防災の項目を参考にされ、地域で話し合ってみてください。



ご不明な点は、徳地地域交流センター・交流センター各分館又は徳地地域づくり協議会へ連絡いただければ、お応えできると思います。

地域の皆様の安心・安全をお祈りしています。



徳地地域づくり協議会
会長 板垣 幸男